

きれいな町ときれいな心

小坂井西小・5 和賀 まほろ

私は、小学校一年生からボーイスカウトに入っています。入った理由は、兄がボーイスカウトに入っていてとても楽しそうだったので、私もやってみたいと思い、入団しました。

ボーイスカウトは、団というところに所属して、年齢ごとに分かれて活動します。私は、カブスカウトで、小学校三年生から五年生と一緒に活動します。みんなで泊まりの活動をしたり、電車に乗って出かけたりすることもあります。自然の中で生き物や植物を観察したり、いろいろな物を使って工作をしたりすることもあります。私は、こういった活動がとても好きです。

また、他の活動もあります。いろいろな場所へ行き、募金活動をしたり、清掃活動をしたりします。これもボーイスカウトの大切な活動の一つです。募金活動は、地域のお祭りなどのたくさんの人が集まる場所やスーパーの入口で行う場合もあります。募金箱を持って、大きな声で、

「募金にご協力をお願いします。」

と言います。大きな声を出すのは、とてもはずかしくて、なかなか声が出せないうちもあります。当たり前ですが、募金をしてくれる人もいれば、してくれない人もいます。やっている途中は、疲れたなもうやめたいなと思うことがたくさんあります。それに、長時間やるのは、とても疲れます。でも、この募金で集まったお金は、高

齢者や障害者の方の施設などで使われたり、施設に車をおくったりと、いろいろな施設や団体を支援するのに使われていると知り、募金をしてくれるのは、とてもありがたいことだと思います。だから、大きな声で呼びかけようとがんばっています。私も、募金を通じて少しでも、施設などの役に立っているとしたら、とてもうれしく思います。

清掃活動は、お祭りの間にゴミを拾います。また、年に一回、「カントリー作戦」という活動があり、団のみんなと一緒に、町のゴミを拾う活動があります。「カントリー」作戦とは缶取り（缶を取る）という意味のダジャレになっていて、おもしろいなと思いました。

活動は、いくつかの班に分かれて、それぞれ町を回ります。缶取りと言いながら、実際に缶が落ちていることはあまりありません。よく落ちていているのは、タバコの吸い殻です。また、ティッシュなどもよく落ちています。お菓子の袋やビニール袋が落ちていることもあります。ここ数年は、マスクのゴミも多くあります。ゴミ拾いの最後に、みんなで集まって、どの班が多くゴミを集めたか、どんなゴミが多かったかを話し合います。たくさんゴミが落ちているのは、やっぱりいやだなと思います。でも、ゴミ拾いの活動をしてきれいになると、とてもよい気持ちになり、心がきれいになった気がします。

でも最近、変化がありました。そんなにゴミが落ちていないのです。清掃活動で回りながら、あまりゴミがないと「拾うものがないなあ」と残念に思いますが、ゴミがないことは実はとてもすばらしいことなんだなと思います。拾うゴミがないということは、ゴミを捨てる人がいないということなので、みなさんの意識が高くなって

いるのかなと思い、うれしく思いました。今後は、ボーイスカウトが「カントリー作戦」というゴミ拾いをやらなくてもよいくらい、町がきれいになってくれるといいなと思います。正直、ゴミ拾いなんて面倒くさいなあと思ってた、やりたくないと思うこともありましたが、私達が活動することで、周りの人が意識してくれるようになって、町がきれいになっていくのであれば、それはとてもうれしいことだと思います。

ボーイスカウトの活動を通して、私の行動で多くの人を笑顔にすることができているのだとしたら、とてもうれしいし、やってきてよかったなと思います。これからはボーイスカウトの活動でなくても、自分からいろいろな人が笑顔になれるような行動を考えていきたいなと思います。